

ミヤマメシダ *Athyrium melanolepis* (Franch. et Sav.) H.Christ

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。温帯性の植物で、分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 だが、危機的状況を考慮し、絶滅危惧 I A 類と評価する。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は斜上し、葉を束生する。葉柄は葉身の半分以下で、緑色のものと紅色を帯びるものがある。葉柄の下部には、光沢のある黒色～黒栗色の鱗片が密生する。葉身は長楕円状披針形、3 回羽状に切れ込み、長さ 50～70cm、幅 25～35cm、下部の羽片は次第に短くなる。胞子のう群は裂片の中肋近くにつき、包膜は鉤形のものがまじる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 67286, 1993-9-2)、2 豊根 (村松 15774, 1994-8-23)。各 1 カ所に、1 株ずつ生育していた。

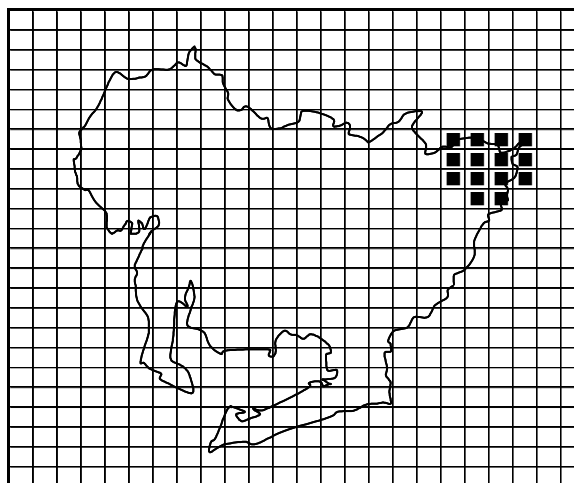
【国内の分布】

本州 (東北～中部地方および鳥取県大山) に分布する。北海道からの報告もあるが、近縁のエゾメシダ *A. brevifrons* Nakai ex Kitagawa との区別が難しいこともあり、集団レベルでの解析が必要である。

【世界の分布】

近隣地域での分布も十分検討されていない。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯の山地林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

富山では、尾根近くの平坦な造林地の林内に 1 株だけ生育していたもので、やや偶産的であり、すでに消滅しているかもしれない。シカによる食害も懸念される。豊根では他の場所にも生育していたが、砂防ダム工事により消滅した。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【関連文献】

保シダ p.121, 平シダ p.235, 学シダ II p.298.
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 502-508. 東京大学出版会, 東京.